

★高野新笠陵

高野氏は大和出身説が有力 桂川右岸の弥生時代の開墾の後に勢力を延ばした土師氏の系統を引く。⇒物集女腹の土師氏。大枝山古墳群は古墳時代中期から後期にかかる首長墓。おおくは群集墳、横穴式で主体部は大型の石材をもちいている。

新笠の陵墓がこのような形式であるかどうかは確定できないが、麓の大枝集落の首長にかかわる陵墓であることは間違いなからう。明治期に現陵墓は天皇制国家を急造するために、多くの旧跡や伝承などをもとにそれらを天皇やその家族などの陵墓として整備、「御陵」として指定した。大枝山古墳の形式は前方後円墳が多い。

高野新笠の父は朝鮮の百済国の武寧王－義慈王の末裔である「和」氏。(読み方は「ワ」氏、または「ヤマト」氏。父は和乙継、母は大枝真妹。(「日本書紀」)

★檜原廃寺跡

奈良時代前期の築造と推定されている。1981年に発掘されてその概要が判明。

向日丘陵の東側にあり、この地域の首長に係わる寺院か。中門跡、八角瓦積基壇の塔跡、回廊、築地跡を発見。中央に塔、北側に金堂跡とみられる土壇跡があり、完成された高句麗式寺院とみられる。南山城の高句麗寺院遺跡と同型か。韓国にも同じ形式の寺院・また朝鮮の平壤にも存在している(定陵寺、清岩里廃寺など)。この寺院は平安前期までは存在していた、とされている。

発掘された資料は建築物関係を除くと、各種の瓦類のほか、須恵器、土師器、緑陶器、など。またすぐ近くには本寺造営にかかわるとみられる瓦窯跡も発見されている。